

### 理論機関誌創刊号目次

- |   |                          |      |
|---|--------------------------|------|
| 1 | イグレン理論誌の発行にあたって          | 芝 忠  |
| 2 | イグレン 30 年から学ぶこと          | 芝 忠  |
| 3 | 地域活性化私論 私の秋田移住の 7 年間     | 宮川 豊 |
| 4 | 国際協力機構 (JICA) 本邦研修実施報告 1 | 加藤文男 |

### 理論機関誌第 2 号目次

- |   |                          |      |
|---|--------------------------|------|
| 1 | 「脱原発」で考える 第 32 回定期総会記念講演 | 金子和夫 |
| 2 | 「中小企業振興条例」の具備すべき内容とは何か   | 愛 賢司 |

### 理論機関紙第 3 号目次

- |   |                                    |      |
|---|------------------------------------|------|
| 1 | 異業種交流シフト 21 と企業視察研修会について           | 有村千里 |
| 2 | 「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進条例」の<br>充実のために | 愛 賢司 |
| 3 | 学生は中小企業の広告をどう評価しているか               | 芝 忠  |
| 4 | 新しい時代の茶の湯                          | 渋谷英明 |
| 5 | 国際協力機構 (JICA) 本邦研修実施報告 2           | 加藤文男 |

### 理論機関誌第 4 号目次

- |   |                          |      |
|---|--------------------------|------|
| 1 | 公設試験研究機関の役割に関する考察        | 芝 忠  |
| 2 | モノづくりの効率化へ向けて            | 山本俊夫 |
| 3 | フクシマ復興応援ネットワークの支援活動報告    | 加藤文男 |
| 4 | 県内の「中小企業振興条例」の到達点と今後の課題  | 愛 賢司 |
| 5 | 国際協力機構 (JICA) 本邦研修実施報告 3 | 加藤文男 |

### 理論機関誌第 5 号目次

- |   |                            |       |
|---|----------------------------|-------|
| 1 | 地球温暖化による極端気象に対応した水災害警報システム | 伊藤幸彦  |
| 2 | 重心位置測定器を開発して「特許をとれたぞ！」     | 横須賀健治 |
| 3 | わが国の異業種交流活動の発展史 その 1       | 芝 忠   |
| 4 | 身近な環境と健康 1                 | 早川成昭  |
| 5 | 国際協力機構 (JICA) 本邦研修報告 4     | 加藤文男  |

### 理論機関誌第 6 号目次

- |   |                      |      |
|---|----------------------|------|
| 1 | わが国の異業種交流活動の発展史 その 2 | 芝 忠  |
| 2 | 身近な環境と健康             | 早川成昭 |

3 「中小企業振興条例」と「経済民主主義」	愛 賢司
<b>理論機関誌第7号目次</b>	
1 大型モータ修理技術の一大革命	藤本俊美
2 コラム集「春夏秋冬」その1	宮川 豊
3 現代 IT 社会におけるイグレンの存在価値	橋本真幸
4 わが国の異業種交流活動の発展史 その3	芝 忠
5 テクニカルショウヨコハマ 2018 に参加	芝 忠

### 編 集 後 記

第8号は、株式会社テクノコンサルタントの伊東会長、石川会員に「高周波衝撃弾性波法」による非破壊調査システムを論文として報告していただきました。昨年2月テクニカルショウヨコハマのセミナーで発表の詳細です。その後この技術を中心に大分県及び大分市の自治体からの支援、更に東京大学との連携が発表されました。まさに産学官連携の典型です。

この技術がさらに大きく、広く発展することを期待するものです。

また昨年イグレンではモノづくり研究会を発足し、その第1回の工場見学会が2018年10月実施しました。当日の説明では機密事項に類する内容もご披露いただきました。表紙は当日の全員の記念撮影です。

次号第9号は、2019年6月を発行予定しています。できるだけ広い範囲から自由な内容で多くの方々のご投稿を歓迎します。

締め切りは、2019年5月15日です。 加藤文男記